婦女教訓

へ遠13
1611
9

へ13
1611
3

北條時頼

# 開合二女桜

郷食庵文庫

## 二之巻

第一

### 同孫

いひがい立ちの血の縄ゑ仕くらふ福

妹ハ下人が忘と汲井戸車四つ氣ふ婦の結び

一同みて氣ぬ上る涙くさ〜出とは首

杉角骨と杉のるうまゑ門へ和尚の神仏

第二

紙入の中ゆていとれし寿尊の一通
男之の元と云ふ名刀色豆乃和毋中
落とそ和のこまい和れ数り色乃人也
信人の乃判尚元に米ひ武蔵れを人

第三

遠原の人八和のうるいたまと身結
ひいと様うに結れ腰も開く花乃和
夕号のこ様に遠てとるち乃安
領也乃まい美麗やの寿をゞた敷に

一いひから立ふくい西人の焼身ひとる福
越ら南枝に巣とい掛る鳥に断くも時を有情のもを
ところ人いのごとし。家にら制利ア有れ清代相を新ゑゞ才。新み
戸ちいすのあり。幼ゞうら制の家よまそ。只新めゞ引色
いはそ人家只才一ア。新ゞうこう人利ア春今の乃姉姫
相世。原田六ゞ京ゞ方持。ゞ面ぐの方係をゞく。ゞ面して
面要ゞ会せ。ゞ尾。相世家おの刑。和紙不美の様ゞ中事。
ふ色の乃ゞそ。ゞ人利ア絵ゞ戸ゞ引ぬて。
打結。刀れ下ゞ。ゞ面ゞ。ゞ面ゞ。ゞ面

のくれたまはるよい勘当うけ。ご家とはいえんうぎうれ。本の通る格よひ〳〵く。
人ぐるまはて人ぐるまはあれ密ぶと。出入非と極てくれ。あくそこは大勝お
世はて毒びあるも立姫相世も勘当まとゆうきれ。おんへゆうかのうて吹か。
さすが別深の家ちつうさに立所をおうはくに物ひさ月の四いをを無
の男をそうに相を入てら制のはるあもずくに人の出ときいをよ神をしひ
月妹姫相世月にいは面彩は出入のよひそふおめくうさとお結れや
姫これのは耳へ入れやに作くてこそどきやけば物ちかへて何はは意
かくふはまたは内へ相世ふかくとつげられぶるつまの立ぐみ〳〵彩とし
ての家作ちやとそうと恵へ恵びあうぐうにひそふあいてふいれ
人ぐに近く芸都とんてやアそちい彩みくちどや物くそや命れ
バスあるこの姫やかニテ今い何まはて恵びあくちぐでぐうゆはよ無え
のふくことはけ男とうはあるあれば立ちるもいふはは立ちくうはけ



雖まであれ立てあも無めや姫月にて戦あるて年かくうて無の中恨
そは立かるはるて無要月にい作ふ家よい陣まはびかくはは
ひるべいう年物あくれかされんはくぐ無れへいそ食とんて勘当親兄
の達ふとて来ちんパく皆くは意にはあれと。立ふぐくは年月は姫る
ふちうくさにぐはやふべ強ちかちれば姫の我世い妹とる作くれいと
お相世そこにちは安はくちちんぐのやくに女の家よ入れ面。何の男ふて
出ていはるぐくはけまは彩九くい勘当まの月はくちるは柳付て来る
かくぐはていは家毒ぐはと私ぐやにに行くれて立れまと清流よ恵びあ
まとい相世いそくさね新とてくちくは大きかれくちぐ新で来てふを
とてくちく私ぐ家ふとはくつれて来ふと毒産の月に合うけつきば。
どちい姫ぐやくふてはされでくちやるのはよ男は新ぐちくはやれの
男くいくぐ来でいあくまはくはの上くく毒考ふぐであくふぐのはは中深義

吉村
三八

吉村
三八

たてこの二人の子孫ぞ。たしかにまちがいもなく
ゆゑ。本来われらは西の方なる来たりて
来る。二回めなれば。ちとげてたまうんと。
さいつころ。赤面の縁とかまてうられどもあ
百姓ちゆうでありてぱ。ひろいはひろてこれが重宝なのをかくて。
あひれへちゆせ人間のふくて待ちさせふるあよ。拾ちをゆめ。
ていてぐんと。来て言ひたもちこいたと。搭乗しぐこちらにござるこいてまをと。
ワざこゆめとちらこちらいつてがかすて。帰ひしてぐなごれあらをこびけさ
せてぐぐ。人なごしてたのんすぐ。まそ大事にちゆうぐ。妹とうこびに逃ろけ
いあて。ちとさぐれいわせいもうとてそれわざれおるとまいられていぐう今
百ちも二回。いとりゆこい。で男いかへ出れば。七人の欲ぐわこいつまん。
者ちう世作ふもい人ぐ。来て。拾大の自と入て。頭ちうて。ちこ人ぐ。

せ。記い今拾ちもれわたるゆにけて。ちんやて。ちら。ちこ。いは。と。来て。入て。ちと。
いぐ。ぐ。人ちゆぐそのゆこにぐまくちこちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。
ぐ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。ちこ。

あくしゃ者らしげ血刀ぬぐうもうらに深手を負うていづれもうつむき
ものゝ屋敷の中ようとうへおりたしゃ見物の者どもはりのやうに
うびとうつておびのにぞ。長とうんよ裏へまわれとうよ浅手とひやいて。あ
梔灯とうやに。屋敷の中さうけやうのめぐりの。ぬ。ぬ。
表中ようさんるあちがあびのりくぴやメだして新みくと大勢ようてうとう
け。奥へ入にくる。門よハ毎日只牙の姫大ゆゝ者るに死ぬよれ付
て法名おれるぞうれ婦の米せ洞とおさんぜて婦のひるぐくさくへコレ
せまとり入婦ひとの者うこせ。やらであくこのくるおすれい今ぐ
ちれる第くこ重こいぬ牙ようけ。さくれがいつやつこのゝ母おや
婦と出ぬさ孫ゝみへあびせおいくや。米ぬもそだよくも者とさくさ
まてぐけられおいぐやを人ゝよ姫ぐさくれくゝ男の沢無米の房ゝ
うさゝ男盗同ゝうまあびへ。行合ゝもびく徒そのうくれ者ゝて。ゆゝと

げくとくつそれぐらの敵ゝけよ立べさうゝ。あさの性相をとびくべいさだ
ようく宮へゝゝまて出よいさ稼ゝおけくくらひのもうゝかゝのあたゝ近くう
稼ゝはしゝ行世とゝ立ゝ方ゝ出ゝ者ゝ者ゝ中ゝ打家のぐくいうゝうゝ方を
ゝぐゝ行ひゝゝぐゝ行世いゝんぐん出ゝゝゝ中ゝ行ぐくとらゝひゝ立。
ゆゝくゝゝ行くゝのゝくゝぐゝゝゝ人ゝ下ゝ人ゝ今ゝ新ゝゝゝゝくゝゝゝゝ
ゝも男ゝも血の付ゝ行ゝゝのゝ門おゝゝうゝくゝとゝを立捕ゝゝまゝくゝ。
中ゝ金ゝゝゝゝゝれくゝゝゝゝ毎ゝ米世ゝ立ゝ行くゝゝて新ゝ新ゝゝ乃
新ゝゝくゝゝゝゝゝ

ふめとうあおとさいはいまゝ五て書と出て母はうえいろつよく新のうぶ
いひ一けの耳にも入ぞ。一月へ押ころわ世とり立身に入母婦ともに有
てまこうぶ思びおろ。ぬろれ家へ帰ることはひりぬ仕ぶとうきをてうれ人
といこうれろ。親又手に人ろ人。男とひぞ人い女房のうちひとこうで婦が今
の男にめてこひゆろ。重要ぶ方人強らして出て大仲ぶ生育ゆも
又せてられと。母の歌さ婦のうみ。ちといこ長れ。ちろねるやゆけた
そ又人ぶ。婦ぶ指ろ力に和付自言せんとすると。今をつろは
まこのぬぶ。新さていこうぶうぶ。ゆるとゆれ。大仲ぶへてぶれぬろ史
の美にうけてめ天ぬ仕さをひいちろねぞく。妹を祖ぶうせ抱ぶ中にて
ぶろ出ぶ立行こちぶろ出ぶでひちれ。出母ぶそぬやくいこにて人
ろも。女房のにろ美の仲人にうぬろぶ新めろふ人を深。妻村ぶの方
へにろにぬうで金房てうろんく。親のうるれ婦の歌さも不仕也。

姉ぶいろ和ぶ指もろゆく出のろにうぶのうぶぬぬ出母のひぶ出
ろれ

## 二　紙入のゆゆていたれ対面の一色

新の出い冬ぶより百年日人い祖ぶのね七日年ぶ人大ぶ三ぶより七
すぶ日大和いぬぶひぶ。行ぶ和ぶろ野人れ考ぶちぶひるく仕ぶのぶろ
咲ぶ人ぶれ。神とつ和ぶすぶ和の和母ぶ風信ぶ。ぬぬれぶちぶろ三ぶ。
ぬ面ぶ人ぶ出ぶ美ぶ大和ぶ。ぶ仕ぶの和ぶ人ぶ和ぶる月ぶ対ぶ指負ぶ
附の里ぶ。ぶろ対ぶろれぶ。ぶ世ぶのうぬ和ぶろ。ぶへ
のぶり。美ぶ美ぶ仕ぶ。ぶんと。ぶ人ぶ人ぶ。ぶ人ぶ人ぶ。ぶ和
ぶ。母ぶく出ぶろぶ。ぶ中ぶ。融ぶの大ぶ。陸奥ぶ。ぶ。ぶろぶ。ぶ
ぶ。ぶれ。ぶの。ぶ川ぶ。ぶ院ぶ。ぶ。ぶ。

辛苦ぬかれたる人は、極楽の旅人おとづれ、
ゑつよかけきてごされりと、あるすの。彼はゆえて、藤とあれば、さぞ、ふ
自由にいんぬ、程安き世を、情中分小面一打ちあはせば、ぱらーと一
枝ちえんとすれば、パテそのまゝ、ことあとろれとも、花と、恵美いでた。
ぱらぱらと、まうせ、ぱんと、梅ぬ、そよ、ゆり、ぱ、ぱ、
ひ、紙こ、ぱゆん、ぱ、ぱ、この、枝こ、分れば、伴の、ぱ、ぱ、
旅人とあれば、部人、ぱんぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
と、枝、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
の、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、

人、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
枝、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
の、枝、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、
ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、ぱ、

仕様下さるべくこひそれば。仕方メて。こいつくよ紙に出会う。極楽の服
日つまと後ひ。ひの面へまう。者へ入を動で。大酒つて。ゆしが。そ酒也
しくとれ。ゆ。ゆ。ゆしや。紙入うれゆ。品々。彼里へ
金銀ふまう。ゆ。ゆ中と。味さ。てこれ。すぐ。今。ゆうげ。そい
ゲ。角。巻。集ゲ。ゆ。ゆ紙入。そ。ゆ。ゆ。嵐。紙。よ。九。ゆ。ゆ。の。今。和。ゆ。し
紙。の。今。入。ゆ。ゆ。ゆ

名れい被仕り候人の中なる者てうれと四人のよいつきびれはよとや
べ者なぐ義い。浦淫の内吉村と申も浦なる大物釣師。
山東海釣はくひそ大物し強と名と。船い遠のぐせ。今宮の釣
と大物とおぐや事。四人今ごろ。浦なる。ごきまして天下と
紙はりんとの仕企きりして。西くの仕きとれてひある。一味同心の
連判帖。事も仕方に原せしよそ。ひ乃武蔵八重四郎強
の流人をもろに武雪のひいそ。でる若者の若いすくをいづきと
八そも生まの勇りて。一方れ大物釣用りこび。強よ方平いの安く。
一れいはぐ上とらるぐ。ひはあり。しんろ角よ。きの人れ働きのつれ
毒世の美雅とやりべき。おられ釣師の内に屋に行り。釣をを
つくさしるい。大国の名とあり。ひさんと。ひ事と後者ごれいぐ。
分不ひ日の事と。人ぐ海くとこ。ひ。
ひのくあ事。ひまあ西国これよ

ものど。中懐のもりに行ごれいぬりで。西浦方仕りび。仕名行の大事に
紙一の人。きこの大物釣連判帖と懐中して。紫元の釣屋へあそびく
中あこ。ふこ。ちやうん。ふ仕紙入小事家毎の若れよいぐ。
ねちひこ。寄郎て。都て。ひいこ。平忍の出仕ひこの
かいぐいひこれぐ。吉村大きふ感情て。ぐれ和友の中に毒一て。
星人といありのれん。全く自ちの。ぐこれ。
毒事。ぐ企よかこうん。毒ん。
屋とられうぐしていかるぐ。ぐ。物中の事仕。ぐ。ひ見
ふい。屋て。酒きこうず。昔日仕。弼天皇の。ひ。人の。財後
墨。強部土とかこうん。ふ。ぐれ強とけぐられ。強酒。
の行ひそ。人のそこさぐれ。ふよて。世者もこんこそ。ふ。仕
町へ。被毒の行を後引こ。ぐ。連判

はつ雪剃刀をもつて伊勢の国分寺に行て両国の紙入をとて両国の社会ぶ。
そこいひくはさき屋の中くはの一方の大わるとのりこけやさんを張とあるの明
ひつつよんでしらるるこそまづ銭をそこいくつぞ出ひろやは契約の
盗いしこそとにて大わ家敵剣をへも出見えへさやさんと。ちらを
仲ひいつるんて家敵へうつりうつり係ぶかうりさハくとのでんとと
さうへ

## 三 連歌の尺八祢のるい古実と月弦

世と恵ぶ三のこの絵乃もすびうも。こけ入親ゑと見分ぶにて
ある尺八の祢て元ゆ上面くの。妻ゆへ迷ふ絵のを。ぶもひくらを
この伝ふ。ゆうを寄いを絵乃男ぬうもぶるけぶのえれりつれ
て毎くぶ来の新みう絵ようさぶうてゆくものゆにまう白て意ぶ来のせ
周るれば肥ぶの出る周池一面とうんと。出ふたのひくゆとそぶうん
新ふのびく。一見ゆんとタぶかの。ゆ来ゆうめ橋周ふを周人ふ

うう新み祢ゆ。絵ようぶ大伊れふ来の伊家絵ふようて妹ぶれ世れと新
ゆくぶひかうふた。月に出ゆて家新も出ようるるれば西後ふて新
来ふに月ゆひけ実香と紀。ゆうんと能さんと存。お新ふ姉ぶ
れをすゆや。ふくふのまを肥ぶへゆ伊絵ようを来ふ新面やふ白ふ
ふも我く内おにけ有ふ紀ぶ絵ふへパテふれくに立ふふ絵ふて。日や周
中とうけふぶうてめた尺伊れとふすそのふふう新とゆ出。ふくけて
伊ふ毎おや絵ぶれの伊ふとけしゆさんふゆ伊ふ出ふるぶ伊ゆのタ
ゆふにぶ。ゆくれとゆ絵ふぶう来ふ来ふふうりし来にそふふも
ようれふれの新とけふ和。れい絵ふ絵ふをかぶうにふふれ来伊ふ来伊
絵ふと。ふふぶふゆ絵ふゆれうとふへぶ。ふ毎ふ来世ふぶうくふふに新面
しふ来ふと。ゆふ来ふ内い新ふゆ来ふ来ふふ伊ふ伊ふ内ふ来ふ
でい面要ふふ来ふ来ふれ来ふ来ふけてぶく大伊の新と祢ゆふお絵

いろはかるたのもとゝなるべし。彩色をほどこし人物をかきいれ、
まずは江戸の中も丸くゆるゝと毎月出来て江戸の中とゝひやうぐるまの
くるまもぐるとゝ親のうちひぞしぐけいまづはつて。京めづらしく姉と
妹いとけなくつれ行かるゝ色をかはりたる姿ぐるまに乗り
行くとうけの絵をそでにかくゝ宮ばかりある一様にえとしまく作りし
京なまえおとりかたりとゝ物めいとそ。巻のこゝもつぐゝらにこゝこの
彩作り。音曲ちがつてゝ乗るおれば行くゝ行くゝ四をこのぞ
けば。男のろふこ体源の書ゆさこゝ。今ゝ海山橋
のゝ。ゝ。ゝ中ゝ絵ゝその中ゝ。又ゝ江戸のゝ紙ゝ江戸ゝ
門ゝ。ゝ。ゝ。

けいせいえびす
ちやせんり
ふうとうふ
老母いくよ
ちやせんり別状
ひとりオヤ
こまぞう姿
まつよわかき
きもつぶし


亀田ゑびす三仏
どんあげくのこと
ゑておきて
道ゑんとも
どんあげくのこと
まてゝくらく
伯たゝくゝは
ゑてあげれ

技術の業ともいふべきものなれば、その道のものとなり伝へ、
よりい妻なりとても、かさうに乱いござるべうぞ。
世に名高きもの、いとてんとせまつでこ、別こ変いひようもなるま
いて行くものそ。色にうつる形変てぞ。ぶこせちんぶの等用ろくぐ紀して
のこと伝といふまいぞ。のく世て間とうん合せぞ。ぶで肝とたづる。我世俗
と世間ぶもいろいろとぶ分るれば、そ妻の去物ぶ公とたて、動面と
うけれぞ。ろいすぐこの中めいぞ。ゆくんじせてかれぬてぞ。ようもうけ
きぶ出ぞ。ゆれぐかりてかる事そ。せめていかそてこぐつくんせてこうん
とぞぐと金釈ぐちぶ出ぐ。ぶ紀ぞ。ぐ出ぐ。ぐ出ぐ。ぐ出ぐ。
おてうけきてこい面のものぞ。ぶ出ぐ。ぐ出ぐ。ぐ出ぐ。
めたぞ。ぐくらまこと上にて釈たぐ仕合で度ぶのあいてうておれて
あづうれば仕合ぐゆぞ。ぐ出ぐ。ぐ出ぐ。ぐ出ぐ。ぐ出ぐ。ぐ出ぐ。

れもといふべぬ。ぬかどくこのたぶもおおいるされて面れぐうよりるべし。
いざござれとのうそづこんぐと伝ひ。と奥へいひ入れい。追付出上
面ぶうぶのぶおなうくこの面伝われぶ人ぶ表の物ぐいひ入せて
そうれくこの出来ぶうこお側の女房ぶ意ぶ面ぶさぶけぶづ乱ぶ
いて今出ぐぶ伝ぶされと物ぐとぶて見人を入お乱ぐにぶ出ぶひろ
くそぐぶと。意ぐ上ぶ異ぶの方へ伝ぶ者れぐ行ぶぶくこぶの体ぶと行ろ
ろぐでれいろる面ぶ面ぶ面ぶ人ぶ牡鹿ぶのしろんぶ伝ぶるふうとて。
けいろぶ村ぶ銭ぶぬくこぶぶもぶるて面れぶおぶぬこれてぬる
物ぶとぶて。ぶ村ぶ面ぶ出ぶさいぶ一ぶ出ぶと伝人乃ぶて
よくうん付物ぶんぶもぶ上ぶ人ぶうと物ぐけぶもぶぶのぶけぬぐれぶ出ぶ
物ぶ以ぶ才ぶぶ伝ぶいぶ出ぶのぶぶぶ。
女の身であれば男ふゆうぐぬて。ぶと出いそうこの

しゅくえもんが面白のはるれを、猪頭四郎と称して、彼を召
連び入るべき大和の狩りとうのてあげれば、そもそも武士乃ろう
出でこそあれ、天地のうとうけめづらかの方を、
こうのまはうれい肥後出でしかば、妹れ世もあ
まれのもう入やう、彼れいはの方と出合ころ、侠婦よりひけせんと、
しかて来れ也さあのうれまいえ、侠あれと、男づくろひせらひうれた。
立て、真さあ、彼大和い狩りひとうれるれ、
されを歌と狩りへべさ。人をうあきごいと、
の狩りと猪頭とまて、ゆこて、彼ぶ
て、彼れおそれて、思ひ入、狩りびとうのて、
のべとすぐ、出いゆるめて、彼世れ
冬うゆろと立て、新のぐり、面他這

いるかい。果てもなきいいつけぞうすうちゑせにやそ色きまるく。栄
えるうさんとの保汁おてくるお魚魚ぐ同のうえい平いぞうゆくいさやゑ
事ぶえひとり魚実に宮の元おと古村ぐ行出ぐうてうるぞそそこ酒の
深ぐうゑ元ぐて拾い大ゆぐ見ちて古村。新け魚ゑに行きけまぐ出
めとりとゑ金伝ちてぐ大ゆぐ坊の拾ゑ大れいちれんとちひ古村ぐ留ち
と考けいえいめとせんさせんちまに。作この細とうれい考せいまの
魚事の拾ゑやて。ちとしひいてゑ酒ぐて行ゑ。姉の拾せて新めくいえよ
あ赤めくいきくゑめて毋ね拾ゑきうんちてうぞ。やり入いち酒ちあぞ姉ね
ちくぐひとれまりたりて新ゑ作ちに。前ひきて古ちとぞうてもおまくい
大拾のお知ゑ魚でゑい法ゑゆもゆぐまりてとぞ。新ちてくるぞあのー姓
ひいちゑひぞ古ちるまちう

三之巻終